

令和4年度 浜松市立雄踏中学校 学校評価報告書

1 自己評価結果及び考察

教職員の自己評価は、昨年度と比較して大きな改善が見られず、低下している項目もある。特にICTの活用度がまだまだ低く大きな課題である。CSについては学校と地域の協働が不十分と感じている職員がいて、CSへの理解が不足している。

生徒は、学校行事や部活動に非常に一生懸命取り組んでいて、誰もが心身の成長を実感しているが、一方で学習の時間は十分と言えない。また、23%の生徒がクラスを安心できる場所と思っていないことがわかり、クラスによって差があるものの、学校としては看過できない問題点と捉えている。SNSの利用については、不安を感じる保護者もいることがうかがえるので、対策が必要に感じている。（別紙参照）

2 学校関係者評価

2月13日（月）に開催した学校関係者評価委員会（学校評議員会、学校運営協議会等）において、自己評価結果及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・教職員自己評価で先生方の成長度が低いと出ている。職員に余裕がなくて生徒が相談しにくい雰囲気になっているのではないかと心配である。
- ・CSの取組に対し、50%の職員が学校とあまり協働できていないと回答。CSへの理解度が低く、この状態が続くと活動低下を招く。発信しても関心をもたれないことも課題。理解してもらえよう活動を活発化する必要がある。
- ・学校を安心な場所だと考える生徒が7割超というのは、高い数字だと感じるが、残りの20%の放置はだめだと思う。原因の究明と対策が必要である。
- ・子供のSNS利用は問題が発生しやすい課題。スマホを使えないと困るが、使いすぎるのも問題。犯罪被害を防ぐためにも使い方やマナーを教えてほしい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価をもとに、以下の点について改善を図る。

- ・職員がプロとしての自覚と自信、さらにゆとりをもって生徒、保護者に対応できるよう、校内研修の充実を図り、同時に働き方改革を進める。
- ・特にICTの活用に関しては、来年度は活用100%になることを目指し、毎回の校内研修に導入し、使わざるを得ない状況をつくって苦手意識をなくす。
- ・CSの発信が一方通行にならないよう、学校運営協議会に1人でも多くの教員が最低1回は参画することを働きかけていく。
- ・学校に安心感をもてない生徒との会話を大切にするとともに、いじめを積極的に認知し、「いじめ防止基本方針」に則って全職員で丁寧に関わる。
- ・来年度からは、外部の専門機関によるSNS講座を計画的に開いたり、ピアサポートを取り入れたりして、生徒のマナーやコミュニケーション力を養う。